

## 一 下士官候補者ノ選定

品性、徳操、高潔、身體強健ニシテ眞ニ軍隊ノ骨幹タル優良ノ下士官ヲ得ルノ先決要件ハ候補者ノ選定ヲ特ニ慎重周密ナラシムルヲ緊要トスルハ贅言ヲ要セサルトコロナリ從來之カ選定、適切ナラサリシモノアリシ爲、教導學校教育ニ惡影響ヲ及ホシ或ハ任官後、下士官ノ體面ヲ汚ス等ノ例尠カラサルニ鑑ミ左ニ候補者ノ選定上特ニ考慮スヘキ件ニ就キ述ヘントス

### 1 操守ニ就テ

自己ノ本分ヲ自覺シ下士官タルノ意志鞏固、品性、高潔ナル者ナルヲ要ス、然ラスシテ單ニ他ノ勸誘ニ依ルモノ或ハ幹部候補生落伍者ニシテ一時自己ノ體面ヲ保持センカ爲、志願スル等ノ如キモノハ中途ニシテ決心



動搖シ或ハ肉體的、勤勞ヲ忌避シテ學術科ノ修得ニ熱意ヲ缺キ或ハ教導  
學校卒業後直ニ除隊ヲ希望スル等ノ實例尠カラサルニ鑑ミ選定上特ニ慎  
重ナル用意ヲ要ス

## 2 健康狀態ニ就テ

教導學校ニ入校後、直ニ胸部疾患ノ爲入院又ハ退校セサルヘカラサルモ  
ノ或ハ既往症ヲ有シ若ハ身體虛弱ニシテ入校後繁劇ナル業務ニ服シ得サ  
ルモノ等尠カラサルニ鑑ミ特ニ候補者ノ選定时ニ於テハ勿論、教導學校  
入校前ノ身體検査ヲ嚴密ナラシメ智能優秀ナルノ故ヲ以テ體力不適當ナ  
ルモノヲ選定スルカ如キコトナキヲ要ス

## 3 家庭ノ狀況ニ就テ

家庭紛糾シ又ハ家政著シク窮迫ノ爲、累ヲ候補者ニ及ホスハ修學ニ專念



シ得サルノミナラス、折角、教導學校ヲ卒業スルモ任官スルコトナク除隊スルモノ或ハ任官後其品位ヲ保持シ得サルニ至ルモノアルニ注意スルヲ要ス

4 學力程度ニ就テ

學歷ノミニ偏依スルコトナク眞ノ學力ニ著意スルヲ要ス、教導學校ニ於ケル學生ノ成績ニ徴スルニ學歷ノ高キモノ必ラスシモ、其成績良好ナラサルモノアルヲ以テ、普通學ノ素養著シク低クシテ典範令等ノ理解ニ困難ヲ來ササル限り前述ノ諸件特ニ操守、健康狀態等ノ具備如何ヲ重視スルヲ肝要トス

5 入隊前ニ於ケル職業、其他ニ就テ

入隊前ノ職業ニ於テ將來下士官タルニ如何ハシキモノ或ハ婦人關係等ノ



爲素行修マラス、學術科ノ修得不良ニシテ任官後ニ於テ、身ヲ誤リ皇軍ノ名譽ヲ毀損スルモノアルニ注意スルヲ要ス

四

## 二 在隊下士官候補者ノ教育

眞ニ優良ナル下士官ヲ得ル爲ニハ在隊、在校間ニ於ケル一貫シタル教育指導ヲ必要トスルヤ論ナキトコロナリ從來ノ調査ニ依ルニ教導學校學生卒業時ノ成果ハ學生ノ在校間ニ於ケル努力如何ニ依ルト雖モ學生ノ素養モ亦重大ナル關係ヲ有ス、而シテ此素養タルヤ、在隊間教育ニ依リ修得シタル素養力最モ重大ナル基礎ヲナスハ否ムヘカラサル事實ナリ、在隊間下士官候補者教育ニ方リテハ教導學校ノ編制、制度、教育綱領、教則並上司ノ訓示等ヲ十分研究理解シ以テ、學校教育トノ連繫ニ遺憾ナキヲ期セサルヘカラス



## 1 精神教育

抑々下士官候補者ノ薫化及指導ハ監督佐官中隊長以下、當事者ノ直接擔任スルトコロナルモ、聯隊幹部ハ擧ツテ之ニ當リ彼等ヲシテ吾ハ一般兵ト異リ國軍中堅幹部ノ候補者ナリトノ矜持ヲ保持セシムルヲ緊要トス  
特ニ候補者出身中隊ノ中隊長以下ノ幹部ハ或ハ教育ノ現場ニ臨ミ或ハ自己ノ室ニ招キ諄々誘掖指導ヲ怠ルヘカラス

此ヲ以テ精神教育ハ一般兵ニ伍シテ行フニ止マラス特ニ時間ヲ設ケ且能ク教導學校教育ニ連繫シ、體驗ニ依リ鍛練スヘキモノト訓話注意ニヨリ反省修養スヘキモノトニ區別シ計畫的ニ實施スルコト肝要ナリ

教導學校入校時ノ調査ニ依レハ單ニ機會教育ノミニテ計畫的ノ訓話ヲ受ケサルモノ或ハ始ント一教官ニ一任セラレアルカ如キモノアリ、又素養



六  
検査ノ結果ニ就テ觀ルニ勅諭ノ記憶理解不充分ナルモノ、國體觀念、建軍ノ本義、所屬聯隊ノ歴史、時局ノ認識等十分ナラサルモノ相當多キハ遺憾トスル所ナリ

尙皇軍幹部トシテ皇軍意識ニ基ク下士官本來ノ責務ヲ自覺シ徒ニ教導學校ニ於ケル成績優等者タランコトノミヲ欲シテ功利的ニ墮セサルコトニ就テハ注意指導ヲ要ス

## 2 學術科

第一年度下士官候補者教育ハ昭和八年六月教訓第十八號、昭和九年三月砲監教第一號、昭和十年一月教訓第一號、昭和十年五月騎監發第一五六號ニ準據シ以テ一般兵トシテノ教育ヲ完成シ之ニ模範タリ得ヘキ技能ヲ具備セシムルヲ要ス



然ルニ從來一般ニ先キ走リタル教育ニ陥リ基礎教育ノ不完全ナルモノ多ク又各隊教育ノ精粗區々ニシテ教導學校入校後ノ教育ニ影響ヲ及ホセルモノ尠シトセス

各隊ニ於テハ教導學校課程ノ全般特ニ教育初期ノ程度ヲ十分理解シ在隊間教育ノ終期ニ於ケル程度ヲ直ニ之ニ移スモ何等支障ナキ如ク研究努力スルノ要大ナルモノアリ

參考ノ爲從來特ニ不備ナリト認ムル點ヲ述フレハ左ノ如シ

#### 歩 兵

(一) 輕機關銃ノ教育ハ小銃ニ比シ一般ニ不充分、特ニ之カ取扱法及射撃ニ於テ然リ

(二) 射撃ニ於テ規定ノ習會ヲ終ラサルモノ、自己ノ銃ニ對シ自信ナキ



モノアリ又一般ニ射撃技術ヲ一層向上スルヲ要ス

(三) 擲彈筒ノ用法ハ未熟ニシテ基礎的教育スラ十分ナラサルモノ尠カラス

(四) 教練助手ノ動作ニ於テ模範、矯正ニ際シ、操典ヲ根據トセサルモノ多シ

(五) 陣中勤務ハ一般ニ訓練、體驗十分ナラス、殊ニ機關銃隊ニ於テ然リ

(六) 劍術、體操ハ一般ニ未熟ニシテ基本、基礎的動作ハ不充分ナルモノ多シ

(七) 通信ハ字號通信著シク不完全ニシテ特ニ受信能力ハ十分ナラス

(八) 普通學ハ一般ニ筆記能力不充分且誤字脫字多シ、又之カ教育ニ方



リ教導學校教程、參考書ヲ教材トナセル隊アルモ、從來ノ經驗ニ徴シ入校後ノ結果ハ却テ不良ナルモノ多キニ注意スルヲ要ス（各兵共通）

騎兵

- (一) 從來一般中隊ニ在リテハ機關銃操法ノ概要教育ヲ要求セラレアリシモ、單ニ數回ノ學科ヲ實施セルノミニテ入校セシムル隊アリ騎監發第一五六號ニヨリ機關銃及輕機關銃教育ヲ改定セラレタルヲ以テ之カ教育ニ遺漏ナキヲ要ス
- (二) 通信教育ハ一般ニ閑却セラレアルハ遺憾ナリ
- (三) 馬事ニ關スル教育一般ニ十分ナラス（歩兵、砲兵共通）

砲兵



- (一) 馬術ハ一般ニ不充分ナリ、單ニ、入校前數回乘馬セルノミニシテ乘馬下馬ノ要領ヲモ知得セサルモノアリ
- (二) 觀測教育ハ尙一層向上セシムルヲ要ス、主要器材ノ操法不慣ノ爲入校後、兵器器材ヲ破損スルモノ尠カラス
- (三) 砲手トシテノ教育ハ概ネ可ナルモ馭者トシテノ訓練甚タ不充分ナリ

#### 4 内務及諸勤務

教育令第百十四ニ示サレアル如ク兵トシテ必要ナル事項ハ特ニ實地ニ就キ綿密ニ教育シ之ニ精通熟達セシムルヲ要ス

然ルニ在隊間、衛兵勤務ノ如キ僅々一、二回ニ過キサルモノ或ハ單ニ見學ノミニ止ムルモノ、甚シキハ見學ヲモ爲シタルコトナキモノアルハ誠



ニ寒心ニ堪エサルトコロナリ

### 三 教導學校派遣時ノ注意

1 下士官候補者ヲシテ光輝アル原隊意識ヲ常ニ腦裏ニ印セシメ修養ト研鑽トニ資セシムルコトハ修學上最モ效果アルヲ以テ聯隊出發ニ當リテハ特ニ其行ヲ嚴肅盛大ニシ聯隊力彼等ニ期待スルトコロ大ナルモノアルヲ感得セシムルヲ必要トス

2 聯隊出發以後著校迄若干ノ餘裕アル如ク旅行日數ヲ與へ途中單獨行動ヲ許可スル隊アルモ從來、此機會ニ素行上間違ヲ生セシ例アルヲ以テ遅クモ入校ノ前日夕刻迄ニ到着スル如ク明確ニ乗込列車ヲ指定シ斯ル虚隙ヲ與へサル如ク指導スルヲ可トセン



此ノ際教官若クハ助教ヲ引率者トシテ派遣セララルル隊アリ學校トノ連繫上極メテ有效ナルモノト認ム

又學校所在地驛著日時ヲ明確ニ學校宛通報スルコトハ彼等ノ案内等ノ爲必要ナルコトトス

2 入校學生關係書類ノ授受ニ就テハ期日一覽表ニ依リ其期日ニ遅レサル如ク又書類調製ニ當リテハ其目的ニ應シ各々記載例ニ準據シ以テ學校ニ於ケル事務ノ進涉ヲ妨ケサルニ留意スルヲ要ス

4 携行兵器、被服ハ各隊當事者ノ周密ナル注意ニヨリ一般ニ員數概ネ正確程度モ亦概シテ良好ナルモ尙、左ノ件ニ注意ヲ希望ス

兵器

イ 小銃ニシテ命中試験ヲ行ハス或ハ自ラ一回モ射撃セサルモノ



ロ 小銃ノ履歴表ヲ送付セサルモノ或ハ整理不確實ナルモノ  
ハ 異式品アルモノ

被服

イ 下装被服、不良ニシテ在校間使用ニ堪ヘスト認メラルルモノ或ハ破綻品ヲ携行スルモノ  
ロ 號文數適合セサルモノ  
ハ 被服梱包カ學生入校時迄ニ到着セサルモノ

#### 四 陸軍教導學校卒業後ノ教育

教導學校在學僅ニ一年此間學校教育ニ於テハ所謂、知的教育ニ偏スルコトナク實地實物ノ訓練修得ニ努力シ學生カ卒業歸隊後直面スヘキ下士官トシテノ



責務ノ遂行ニ遺憾ナカラシムル如ク十分ノ考慮ヲ拂ヒアリト雖、一面將來ノ爲發達ノ素地ヲ與フルノ必要上、學校ノ課程ハ時間ニ比シ教育事項甚々多ク、又同校教育ノ性質上、實地ニ即スル教育ノミニ終始スルヲ許ササルモノアルノミナラス、而モ實施ノ對象ハ學生相互ナルヲ以テ一般兵ヲ對象トスル機微ノ點ハ到底體驗シ得サル爲卒業直後ノ實務能力、就中內務、諸勤務及教育法ニ關シテハ尙下士官トシテ遺憾ノ點アルハ止ムヲ得サルトコロナリ此ヲ以テ歸隊後、教育ヲ中絶スルコトナク克ク學校ノ教育ニ連繫シテ各隊ノ實狀ニ即スル如ク之ヲ實施シ彼等ノ修得セシ技能ヲ實地ニ練磨セシメ其活用力ヲ附與スル如ク指導スルコト特ニ肝要ナリ

各隊視察ノ結果ニ鑑ミルニ學校卒業ヲ以テ直ニ完成セル初級下士官タリトノ誤解ハ漸次減少シ、多クハ之カ補備教育ノ必要ヲ認メラレアルモ幹部ノ人少



業務ノ繁忙等ノ爲實際ニ於テハ所望ノ如ク實施セラレス又、實施スルモ特ニ歸隊直後ノ下士官ヲ指導スルノ著意ヲ缺クモノ尠シトセス之レ學校教育ノ實際ヲ明確ニ理解セラレサル結果ニ基クモノナリト信ス  
學生ノ卒業歸隊スルヤ、卒業ノ安心ト緊張ノ生活後ニ來ル精神ノ弛緩トニヨリ過誤失態ヲ生シ易キヲ以テ不斷ノ指導誘掖ヲ必要トスルト共ニ特ニ先任下士官ノ彼等ニ對スル指導ニ留意スルヲ要ス

## 五 教導學校教育ヲ向上スル爲軍隊ニ

### 對スル希望

1 學校ト軍隊トハ恰モ社會ニ於ケル學校ト家庭トノ如ク、又軍隊ト家庭ト似タリ、隨テ軍隊幹部ノ在校學生ニ對スル關心ノ程度ハ延イテハ在校學生



ニ對スル精神上ニ至大ノ影響ヲ與フルヲ以テ或ハ通信ニ或ハ訪問ニ機ニ臨ミ激勵ノ辭ヲ與ヘ、原隊意識ヲ旺盛ナラシムルヲ可トセン、殊ニ聯隊ノ軍旗拜授記念日、創立記念日ニ在校學生ニ對シ其喜ヲ頌ツカ如キハ彼等ノ感激如何許リ大ナルモノアラシ

- 2 教導學校教育ト在隊間下士官候補者教育トノ連繫ヲ最モ密接ナラシムル爲ニハ將校ノ教導學校内容ノ理解ヲ第一義トス、然ルニ將校中教導學校教育ノ經驗アルモノ比較的尠キ現況ニ於テハ努メテ自ラ機會ヲ求メテ學校ヲ見學シ其制度、教育等ノ實際ヲ理解セラルルコトヲ切望シテ止マサルナリ
- 3 在隊下士官候補者教育教官及助教ハ各隊共夫々適任者ヲ充當セラレアルモ、之カ異動、交代ハ教育上支障多キヲ以テ成ルヘク之ヲ避クル如ク考慮ヲ望ム



4 在隊下士官候補者教育關係書類ノ整備ハ本教育上重要ナル事項ナルニ拘ラス之カ整備不充分ナルモノ尠カラス例ヘハ從來屢々上司ヨリ與ヘラレタル訓示、講評、注意事項竝陸軍教導學校令同教育綱領、第一年度下士官候補者教育ニ關スル訓令、規定等ノ整備シアラサルカ如キ或ハ前教育擔任者ノ經驗ニ基ク所見ノ記録ヲ存セサルカ如キ是ナリ、宜敷教育擔任者ハ此點ニ關シ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ以テ後任者教育ノ參考ニ資スルノ著意ヲ怠ルヘカラス

(終リ)



四月廿七日 臨時祭中勅使、皇族御參拜、軍隊參拜（約二十社）  
 (口)新聞發表ハ委員ノ提供セル資料ニ依リ陸軍省新聞班ニ於テ行ヒタリ

「ラジオ」放送ニ就テ

永久甲

政務次官 回付 決裁 後 連帶 課名 主務 監査 建築 衣糧 衛生  
 陸軍省 防備 銃砲 馬政 恩賞  
 決行(決裁)後 同覽 課名

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

牛島

房官臣大		課局務主			大臣	件名	番受	陸軍省	徵募課
了結	領受	出提	領受	號番					
昭和	昭和	昭和	昭和	軍機第 五二號	陸軍省	陸軍省	第一〇八六號	起元應(課)名	陸軍省
年	年	年	年	五月二十八日	局長	次官	政務	主務	10.5.17
八月二日	五月廿八日	五月廿八日	五月廿八日	局長	主務	次官	政務	課長	10.5.22
(裁決)行決		帶連			局長	高級	參與官	書記官	陸軍省
覽回後		局長			局長	副官	書記官	書記官	10.5.22
局長		局長			局長	主務	書記官	書記官	陸軍省
局長		局長			局長	課長	書記官	書記官	10.5.22
局長		局長			局長	主務	書記官	書記官	陸軍省
局長		局長			局長	課長	書記官	書記官	10.5.22

陸軍省

陸軍省 10.5.22 衣糧課

陸軍省 10.5.18

10.5.23

陸軍省 10.5.21

陸軍省 10.5.14 恩賞課

陸軍省 10.5.17 銃砲課

陸軍省 10.5.22



次官より陸軍一般へ通牒案  
陸普

陸軍官衙學校等、設置スル青年學校、関シテハ  
左ノ趣旨、依リ處理セラレ度依命、通牒ス

左記

- 一、昭和五年三月七日陸普第八四九號「陸軍官衙  
學校等、於ケル青年訓練振作ノ件通牒」ノ精神  
ハ青年學校ニ對シテモ準用スベキモノトス
- 二、陸軍官衙學校等、設置スルハ青年學校ハ  
青年學校令第四條ニ依リ、私立ト為スヤ或ハ  
青年學校規程第七條ニ依リ、他ノ青年學校

二「ラ」ニ「女」ニ「送」ニ「送」

(四) 陸軍發表ハ委員ノ提對シテ資條ニ對シ、陸軍省發開議ニ送テ行ハル  
四月廿十日 編輯發中、皇冠聯參、軍編參、(條二十通)



ノ分教場トスヘキヤハ其ノ維持ノ關係等ヲ考慮  
シ適宜處理スルモノトス

三、陸軍官衙學校等ニ於テ私立青年學校ヲ設立  
スル場合ニ於ケル學校名ハ左ノ一例ノ如ク  
私立ノ文字ノ次ニ土地名又ハ工場等ノ名稱  
ヲ挿入スルモノトシ職業科名ハ附セサルモノ  
トス

私立三宅坂青年學校

陸普第三〇二二號

昭和十年五月廿九日甲



陸

軍



陸普第八四九號

陸軍官衙學校等ニ於ケル青年訓練振作ノ件

陸軍一般ニ通牒

昭和五年三月七日

陸軍次官 阿部 信行

青年訓練ヲ受クヘキ年齡ニ在ル者ヲ多ク雇傭スル  
陸軍官衙學校等ニ於テハ成ルヘク所屬雇傭人ヲ收  
容スヘキ公立訓練所所屬ノ訓練所ヲ設置シ該人員  
少キ用餘ノ官衙學校等ニ於テハ其ノ雇傭スル未入  
所青年ヲシテ速ニ最寄訓練所ニ入所スル様指導シ  
以テ青年訓練ヲ振作セラレ度依命通牒ス

追テ訓練所ヲ設置スル向ハ成ル可ク四月一日迄  
ニ實施セラルル様致度尙参考ノ為別紙添付ス



第一

官廳等ニ於ケル青年訓練実施案  
官廳等ニ於テ青年訓練ヲ実施スル方法次ノ如シ

市町村等公立青年訓練所ノ分所或ハ支所ヲ官廳等ノ内部又ハ其ノ附近ニ設ケ尚該官廳等ニ雇傭スル青年ノ訓練ヲ実施ス

陸軍省及其附近官衙ニテ特設セル三宅坂分所文部省及其ノ附近若干ノ官廳ニテ特設セル丸ノ内訓練所ノ如シ

第二

陸軍省附近陸軍官衙ニテ特設セル青年訓練所設置ノ経緯及経営ノ方法次ノ如シ

陸軍省、参謀本部、陸地測量部、航空本部、兵器本廠等ニ於ケル雇傭者中青年訓練ヲ受ケルコトヲ得ル該当年齢者ヲ集メ東京市立赤坂訓練所ノ一分所トシテ陸軍省内ニ設置シ三宅坂分所ノ名稱ヲ用ヒ東







陸普第三一〇二號

日給者タル陸軍ノ雇員、病人又ハ職工ニシテ青年  
訓練出場ノ為出務日又ハ就業時間ヲ缺キタル場  
合ノ給料ニ関スル件陸軍一般へ通牒

大正十五年七月二十一日 陸軍省副官 中村孝太郎

大正十五年七月一日以降日給者タル陸軍ノ雇員病人又  
ハ職工ニシテ出務日(職工ニ在リテハ就業時間)ヲ缺クニ非サレハ  
青年訓練ニ出場シ得サル場合ニ於テ之カ為不参ノ  
日(職工ニ在リテハ出勤ノ時間)ハ之ヲ出務日数(職工ニ在リハ就業時間以下同)ニ算入  
シ得ル儀ト承知アリタシ

追テ職工ノ就業時間ハ一日十時間(十六歳ノ者ニ在リテハ九時間)トス  
又一年(当該訓練所ノ教員)ヲ通シ出勤時間百二十時間  
(雇員、病人、在リテハ)ヲ超エタルトキハ陸軍大臣ノ認可  
ヲ受フルニ非サレハ前項ノ出務日数ニ算入シ得サ  
ルモノトス



保存期限

永久

決裁指定



決行指定



政務次官  
參與官回付

決裁前

連帶

軍事補佐官

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號

武部一八六號

起元廳(課)名

徵募課

件名

陸軍官衙學校等之設置スル件  
學校職員之件

大臣  
委

次官

委

高級副官



主務副官  
官房御用掛



書記官



審案  
筆記者

主務局長



主務課長



主務課員



主務局  
受領番號

軍徵第八九號

提出

昭和十年七月二十七日

大臣  
受領

了結

昭和七年七月廿七日

大官  
受領

昭和七年七月廿七日

決行後  
回覽

局長

課長

陸軍

軍



副官ヨリ陸軍一般へ通牒案

陸軍

昭和十年五月二十九日陸軍第三〇二二號ニ依リ陸軍  
官衙學校等ニ私立ノ青年學校ヲ設置スル  
場合陸軍ノ現職ニ在ル者當該學校ノ設  
置者、校長又ハ其ノ他ノ職員タルヲ要スル場合  
ニ於テハ所管長官(師团长又ハ之ト同等以上ノ權アル  
長官)但シ陸軍大臣直轄ノ官衙學校ニ在リテハ其ノ  
長官之ヲ許可シテ之ヲ支テテ此ノ場合ニ於テハ  
大正十一年陸軍第一三五八號ニ依ル報告又ハ通牒  
ハ之ヲ要セサルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス



八奉納金品

奉納供物ハ各宮殿下ノ白羽二重ヲ始メ岡田首相、各省大臣、牧野内大臣、貴

族諸議長、

本通案ヲ又安トスル理由

曩ニ陸軍官術學校等々私立ノ青年學校  
ヲ設置スルコトヲ認メラレタル關係上該學  
校ノ設置者、校長其ノ他ノ職員ノ大多數ハ  
陸軍ノ現職ニ在ル者ヲ以テ充當セラレ  
テ自然トスルモ之カ任用ハ官吏服務規  
律ニ抵触セサルヤノ疑問ヲ生マヘキヲ以テ  
本通案ヲ安トス

陸軍省第四三六七號 昭和四年七月廿日

三



陸普第三〇二二號

(甲)

陸軍官衙學校等ニ設置スヘキ青年學校ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十年五月二十九日

陸軍次官 橋本虎之助

陸軍官衙學校等ニ設置スル青年學校ニ關シテハ左ノ趣旨ニ依リ處理セラレ度依命通牒ス

左記

- 一 昭和五年三月七日陸普第八四九號「陸軍官衙學校等ニ於ケル青年訓練振作ノ件通牒」ノ精神ハ青年學校ニ對シテモ準用スヘキモノトス
- 二 陸軍官衙學校等ニ設置スヘキ青年學校ハ青年學校令第四條ニ依リ私立ト爲スヤ或ハ青年學校規程第七條ニ依リ他ノ青年學校ノ分教場トスヘキヤハ其ノ維持ノ關係等ヲ考慮シ適宜處理スルモノトス
- 三 陸軍官衙學校等ニ於テ私立青年學校ヲ設立スル場合ニ於ケル學校名ハ左ノ一例ノ如ク私立ノ文字ノ次ニ土地名又ハ工場等ノ名稱ヲ挿入スルモノトシ職業科名ハ附セサルモノトス  
私立三宅坂青年學校



關

兵務

八月六日

陸軍省 第二一九

放庶第一三四三號

鐵道放範草案

停車場設備

同編算整理書送付件通牒

昭和十年六月二十二日

教育總監部庶務課長甘相重太郎

陸軍省副官 牛島 滿殿

首題、圖書近ノ制定セラルルニキニ付取り敢ハス参考ノ  
為記、通送付ス

記部

陸軍省 10.7.26

10.6.26

10.6.26

官

陸

陸軍省 10.7.29 號 動員課

陸軍省 10.7.29 號 材課

永久甲

去記、通配、賦、本、本、本

軍了課

勤更課

器林課

計課

友房中

号務課



關

兵務

八月六日

陸軍省 第二一九

陸軍省 10.7.29

陸軍省 10.6.26

陸軍省 10.6.26

官

陸

陸軍省 10.7.29 第 號 動員課

陸軍省 10.7.29 第 98 號 材課

放展第一三四三號

鐵道放展草案

停車場設備

同編基理軍書送付件通牒

昭和十年六月二十二日

教育總監部庶務課長甘粕重太郎

陸軍省副官 牛島 滿 殿

首題、圖書近ノ制定セラルルニキニ付取り敢ハス参考ノ  
為記、通送付ス

記

部

首題 七二七 兵務







陸達案

憲兵練習所學生、修業期間ハ當分、内左

ノ通短縮ス

昭和十年七月 日

陸軍大臣

甲種、丙種學生

八月以内

乙種學生

十月以内

附則

陸達第二十號

八月廿

昭和七年陸達第二號ハ之ヲ廢止ス

官報照台

理由

元來學生ノ修業期間ハ甲、丙種學生ハ十月、乙種學生ハ一年ナリニカ時高ノ慶係上昭和七年八月七日、九月ニ短縮セラレタリ然レトモ其ノ後ノ情勢及教育ノ見地等ニ鑑ミ逐次常軌ニ復スルノ要ヲ認メタルニ因ル

陸軍省 陸軍大臣 陸軍省 陸軍大臣 陸軍省 陸軍大臣







陸軍省 第一四五七

憲庶第三八二號

憲兵練習所學生ノ修業期間ノ件上申

昭和十年七月十六日

憲兵司令官 田代皖一郎

陸軍大臣 林 銑十郎殿

昭和七年三月五日陸達第二號ニ據ル首題ノ件當分ノ内左記ノ通定  
メラレ度上申ス

左記

- 甲種、丙種學生 八月以内
- 乙種學生 十月以内



陸軍



憲兵傳習所令

勅令第三四〇號 大正九年八月七日

改正加除 勅令第一六〇號 大正九年七月七日

第一條 甲種及丙種學子生ノ修業期間ハ

十月トシ九月ヨリ翌年六月ニ至ル

乙種學子生ノ修業期間ハ一年トシ七月ヨ

リ翌年六月ニ至ル



憲兵練習所學生、修業期間変更ニ関スル件

勅令第二〇號 昭和七年三月廿日

憲兵練習所學生、修業期間ハ憲兵練習所令第一條ノ規定ニ拘ラス當分ノ由陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更スルヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス







大臣ヨリ参謀總長、教育總監宛照會案

陸普

首題ノ件、関スル別紙省令案ニ對スル御意  
見至急承知致度照會ス

陸普第四四〇五號 昭和十年八月五日

右異存ナキ回答アリタル場合青年學校教練科  
等査閲令及昭和十年陸軍省令第一號中改  
正ノ件公布後

陸軍省令案 (別紙ノ通)

陸軍省令第八號

八月廿六日

官報聯合

遺族及特別參拜者ノ人員ハ第七遺族招待ノ音ニ掛連ノ通

五軍 樂 隊

陸海軍軍樂隊ハ四月廿六日以後左ノ通交互出場ス





四月廿六日 授式

陸軍 戶山學校軍樂隊

四月廿七日 臨時祭

午前 陸軍 戶山學校軍樂隊  
午後 海軍 軍樂隊

四月三十日 祭

(右省令案公布後)

次官ヨリ海軍、文部、外務、拓務各次官並對

滿事務局長宛通牒案

陸普

首題ノ件ニ関スル陸軍省令八月十三日公布

セラレタルニ付念通牒ス

陸普第四五五六號 昭和十年八月十四日





文部其他ノ関係各省トハ夫々  
諒解スル

陸軍省令

青年學校教練科等查閱規程左ノ通定ム

昭和十年 月 日

陸軍大臣 林 銑 十 郎

青年學校教練科等查閱規程

第一條 昭和 年勅令第

號ニ依ル青年學校等ニ於ケル教練科

等ノ查閱ハ各青年學校（其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ヲ含ム以下同ジ）ニ於ケル教練科（其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ニ在リテハ青年學校ニ於ケル教練科相當科目以下同ジ）ノ情況ヲ檢シ當該青年學校ノ課程ヲ修ムル者ガ兵役ニ關スル特別ノ資格ヲ具備スルヤ否ヤヲ考察

改正ノ大綱

一從來樺太、台灣、朝鮮等ニ於ケル青年訓練所等所謂青年訓練所ト同等以上ト認定セシタル課程ニ對シテハ勅令ニ據ル教練查閱ヲ實施スルコトナク陸軍省ト關係方面トノ協議ニ依リ實施シアリシモノ本回ハ勅令ニ據リ查閱ヲ實施スルコトナク陸軍省令ニ於テハ之等ノ地域ニモ及リルヲ規定セリ  
二第一條ハ從來ノ查閱規程（陸訓）中ニアリシモノ一般ニ知悉セシムル所得（陸訓）中ニアリシモノ本回ハ省令ニ據リ入セリ



スルト共ニ教練科ノ進歩發達ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條 青年學校ニ於ケル教練科ニ關スル査閱ヲ爲サシムル將校ヲ青年教練査閱官ト稱ス

第三條 青年教練査閱官ハ師團長又ハ軍司令官（朝鮮軍司令官ヲ除ク以下同ジ）其ノ部下將校ノ中ヨリ之ヲ命ズ但シ師團長又ハ軍司令官ハ部下ニ非ザル將校ニ當該將校ノ在職スル部隊ノ長ト協議シ青年教練査閱官ヲ命ズルコトヲ得

第四條 青年學校ニ於ケル教練科ニ關スル査閱ハ聯隊區（朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ兵役法施行規則第百八十一條ニ掲グル上欄ノ地域ニ從ヒ各其ノ下欄ノ師團長又ハ軍司令官ニ於テ適宜定ムル區域以下同ジ）毎ニ若干名ノ青年教練査閱官ヲ



包裝シ各戸ニ一箇宛交付スルノ準備ヲ爲ス

シテ分擔<sup>シテ之ヲ行ハ</sup>査閱セシム

第五條 師團長又ハ軍司令官ハ當該師管（第十二師團長ニ在リテハ當該師管ニ上海、漢口ヲ加ヘタル地域、兵役法施行規則第一百八十一條ニ掲グル下欄ノ師團長（第十二師團長ヲ除ク）又ハ軍司令官ニ在リテハ各其ノ上欄ニ掲グル地域以下同ジ）内ニ於ケル教練科ニ關スル査閱ヲ指揮監督ス

第六條 師團長又ハ軍司令官ハ教練科ニ關スル査閱ニ關シ査閱ノ要領其ノ他必要ナル事項ヲ青年教練査閱官ニ指示スベシ

第七條 教練科ニ關スル査閱ハ各青年學校ニ付二年以内ニ少クトモ一回之ヲ行フヲ例トス

第八條 師團長又ハ軍司令官ハ教練科ニ關スル査閱ノ時期ニ關シ關



係ノ地方長官（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東州廳長官、南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、滿洲國（南滿洲鐵道附屬地ヲ含マズ）及支那ニ在リテハ領事館<sup>官</sup>（明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ）以下同ジ）ト協議スベシ

師團長（第十九、第二十師團長ヲ除ク）ハ前項ノ協議ノ結果及青年教練査閱官ノ官氏名ヲ聯隊區司令官ニ通知スベシ

第九條 聯隊區司令官、第十九、第二十師團長又ハ軍司令官ハ青年教練査閱日割表ノ調製及査閱場ノ選定ニ關シ要スレバ支廳長、管理者、學校長、設置者、道知事、州知事又ハ廳長ト協議スベシ

西曆廿三日

委員、委員權、議事權委員、一權又ハ平議員十名、

同業ニ於テニ一箇代表トスルノ準則ヲ設ス



一、發給代ハ半手ハ即ハ日美島七海祭轉直送本島夜ハ心路本報詳果セ却々也リ

第十條 聯隊區司令官、第十九、第二十師團長又ハ軍司令官ハ青年

教練査閱官ノ擔任スベキ青年學校、査閱ノ場所及査閱日割ヲ定メ

テ査閱ノ日ヨリ概ネ二十日前ニ之ヲ道知事州知事廳長地方長官及青年教練査閱官ニ

通知スベシ但シ聯隊區司令官ニ在リテハ該通知前豫メ師團長ノ認

可ヲ受クルモノトス

第十一條 師團長又ハ軍司令官ハ豫メ聯隊區毎ニ分チタル青年教練

査閱日割表ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

前項ノ査閱日割表ハ當該年ノモノヲ數次ニ分チ報告スルコトヲ得

第十二條 青年教練査閱官教練科ニ關スル査閱ヲ爲シタルトキハ當

該青年學校ノ管理者（道府縣立學校ニ在リテハ學校長、私立學校

ニ在リテハ設置者又ハ其ノ代表者）立會ノ上學校長（道府縣立學

從來請許ノ  
等ニ立會ノ  
年學校長  
ヲ受クル如







又ハ青年訓練所主事

校ノ學校長ヲ除ク一並ニ教練科ヲ擔任スル教諭、助教諭及指導員  
ニ對シ所見ヲ開示スベシ

第十三條 青年教練查閱官ハ查閱ノ結果ニ基キ其ノ全般及各青年學  
校ノ教練科ニ付左ノ事項ヲ記載シタル報告書三通ヲ調製シ查閱終  
了後二十日以内ニ師團長又ハ軍司令官ニ提出スベシ

一 教練科成績ノ概要

二 查閱ノ結果ニ付開示シタル所見ノ要旨

三 將來ニ關スル意見

四 其ノ他必要ト認ムル事項

第十四條 師團長又ハ軍司令官ハ前條ノ報告書ノ内一通ヲ當該青年  
學校所管ノ地方長官ニ送付シ師團長ハ第十九、第二十師團長ヲ除  
道知事、州知事及廳長

第十三條第十五條ノ報告ハ若干ノ簡章  
トセリ

四、接待所ノ設備



クニ在リテハ他ノ一通ヲ當該青年學校所在地ノ聯隊區司令官ニ  
交付スベシ

第十五條 師團長又ハ軍司令官ハ毎年左ノ事項ヲ記載シタル管内青

年教練査閲報告書ヲ調製シ五月十日迄ニ陸軍大臣ニ提出スベシ

- 一 第六條ノ規定ニ依リ指示シタル査閲ノ要領其ノ他ノ事項
- 二 教練科一般ノ成績
- 三 將來ニ關スル意見
- 四 其ノ他必要ト認ムル事項

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年陸軍省令第八號及昭和二年陸軍省令第十四號ハ之ヲ廢止



制定ノ理由

近ク青年學校教練科等査閲令（勅令）ノ公布ヲ見ル豫定ナルヲ以テ  
之ニ應スル査閲規程トシテ本令ヲ公布スル必要アルニ依ル  
本令ト從來ノ査閲規程ト異ル要點ハ青年學校<sup>（教練科等）</sup>査閲令（勅令）ニ所謂  
認定學校ニ於ケル教練ヲモ査閲スルコトヲ得ル如ク規定セラル、管  
ナルヲ以テ樺太、朝鮮、臺灣、滿洲國、支那等ニ於ケル査閲ヲモ規  
定シタル點ニアリ



〔参考〕

本勅令ハ八月一日ノ閣議ヲ通過シ  
近ク公布セラレタル旨ナリ

昭和拾肆年七月貳日

朕青年學校教練科等查閱令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣

海軍大臣

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

拓務大臣

勅令第 號

青年學校教練科等查閱令

陸軍大臣ハ陸軍現役將校ヲシテ青年學校令又ハ昭和十年勅令第九十  
一號ニ依ル青年學校ニ於ケル教練科及兵役法施行令第三十一條第三



項ノ規定ニ依リ其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル  
學校（陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號  
ニ依リ陸軍現役將校ヲ配屬シタル學校、陸軍現役將校學校配屬令第  
五條第一項ニ掲グル學校及陸海軍所屬ノ學校ヲ除ク）ニ於ケル青年  
學校教練科相當科目ニ關スル査閲ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年勅令第七十八號ハ之ヲ廢止ス

參 考

大正十五年勅令第七十八號

陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ青年訓練所令又ハ昭和二年勅令第三百三十



奉納供物ハ各宮殿下ノ白羽ニ重ヲ姪メ岡田首相、各省大臣、牧野内大臣、貴

八號ニ依リ設置シタル青年訓練所ニ於ケル教練ヲ査閲セシムルコト  
ヲ得

大正十四年勅令第二百四十六號ハ文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役  
將校ヲ配屬スルノ件ナリ





式一五八一

本部 庚日第二 號ノ五七

陸軍省 10.8.8 98

陸軍

青年學校教練科等查閱規定ニ關スル件回答

昭和十年八月八日

參謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



首題ノ件ニ關シ八月五日陸普第四四〇五號ヲ以テ照會ノ趣具存ナシ





至急 第一五八二號其一

教庶第一五五八號

青年學校教練科等查閱規定ニ關スル件回答

昭和十年八月七日

教育總監渡邊錠太郎

陸軍大臣 林銑十郎殿

昭和十年八月五日附陸普第四四〇五號照會ニ係ル首題ノ件異存無之



陸





閱



八月廿三日

七三

陸軍省 第一五八九號

放庶第一五二號

十四年式十糧加農、編制・裝備一部、改正二件ヲ野戩重砲兵隊ノ教育關スル件通牒

昭和十年七月三十日

教育總監部本部長林

桂

陸軍次官

橋本虎之助殿

首題ノ件ニ關シ別冊ノ通各關係ノ向ハ訓令セラレシニ付通牒ス

(別冊一部)



陸



久甲





保存期限

十年

決裁指定

決行指定

牛島

政務次官  
參與官  
回付  
決裁前連帶  
後課名

永久甲

軍  
徵  
銃  
器  
補

決行(決裁)後  
回覽課名

陸軍省  
10.8.11  
軍事課

陸軍省  
10.8.21  
第308號  
銃砲課

陸軍省  
10.8.11  
第7號  
銃砲課

起元廳(課)名

陸軍航空本部

件名  
陸軍飛行學校及陸軍技術學校教育綱領1件

大臣  
委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官  
官房御用掛  
計掛

主務課員

審案  
筆者

大 臣 房 官	主 務 局 課	受 領 番 號	受 領 番 號	提 出	受 領 番 號	了 結
昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年
八 月 廿 日	八 月 廿 日	八 月 廿 日	八 月 廿 日	八 月 廿 日	八 月 廿 日	八 月 廿 日

決行(決裁)後  
回覽

局長

局長

課長

課長

陸軍



陸普

陸軍航空本部長へ指令案

八月十二日附航教第五六三號申請、通認

可也

陸普第四七一八號昭和十年八月廿三日





陸軍總務部第七二五號

航教第 五六三號

陸軍飛行學校及陸軍航空技術學校教育綱領ノ件申請

昭和十年八月十二日

陸軍航空本部長

堀

丈夫

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

首題ノ件別冊ノ通定メ度ニ付認可相成度

陸軍航空本部長印



陸





招魂式ハ四月廿六日午後八時ヨリ十時十分ニ互リ最モ莊嚴ニ行ハレタリ

陸軍飛行學校及陸軍航空技術學校教育綱領

昭和十年七月十九日  
陸軍航空本部





熊谷陸軍飛行學校操縱生徒教育綱領

- 一、操縱生徒教育ノ目的ハ幹部タルヘキ性格徳操ヲ涵養シ飛行機ノ操縱ニ任スル下士官タルニ必要ナル學識技能ヲ具備セシメ且將來ノ發達ニ資スヘキ素地ヲ與フルニ在リ、抑、操縱者ハ飛行機活動ノ本源ニシテ之カ教育ノ成果ハ飛行隊ノ能力發揮ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ教育ニ任スル者ハ常ニ周到ナル準備ヲ爲シ懇切熱誠率先垂範以テ教育訓化ニ當リ空中勤務者必須ノ性能ノ涵養ニ努ムルヲ要ス
- 二、生徒隊ニ於ケル訓育ハ勅諭勅語ヲ奉體シ軍人精神ヲ鍛練シ品性ノ陶冶、人格ノ向上ニ努メ下士官タルニ必要ナル一般軍事學識技能並内務及諸勤務ヲ教育ス



教育課程ハ別表第一ニ據ルヘシ

三 教育部ニ於ケル教育ハ配屬スヘキ部隊ノ分科ニ應ジ偵察機、戦闘機、軽爆撃機又ハ重爆撃機ノ操縦術ヲ修得セシメ且操縦者ニ必要ナル機関ノ技能ヲ附與シ特ニ自ラ飛行準備ヲ爲シ得ルノ伎倆ヲ有セシムル如ク實施スヘシ

本教育ノ實施ニ伴ヒ特ニ空中勤務者トシテノ精神教育ニ意ヲ用フルヲ要ス

教育課程ハ別表第二ニ據ルヘシ

四 教育ノ實施ハ概ネ軍隊ニ準シ行フヘシト雖生徒心身發達ノ状態ニ適應セシムルノ着意ヲ要ス

生徒隊及教育部ハ互ニ連繫ヲ密ニシ協力一致シテ之カ教育ノ完成ヲ期スヘシ又軍隊教育トノ連繫ニ着意スルヲ要ス



四月廿七日臨時祭

午後 海軍軍樂隊

別表第一

生徒隊訓育課程表

教育マヘキ課目及程度ハ概ネ軍隊教育令ニ示ス第一年度下士官候補者教育ニ準マヘシト雖特ニ指示マヘキ事項左ノ如シ	訓話	徒歩教練	陣中勤務	内務及請勤務	兵器業務	普通學
勅諭勅語ニ基キ軍人精神ヲ注入啓發シ我國體ノ精華、建軍ノ本義ヲ理解セシム	初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム	主トシテ歩哨、傳令、行軍、宿營ニ関シ教育ス但初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム	初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム	軍隊兵器業務中下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム	地理、歴史、國語、數學、作文、教育ヲ行フ	



別表第二

教育部 航空法 航空衛生ニ関スルモノトス

<p>機 關 工 術</p>	<p>機体ハ點檢ニ重キヲ置キ輕易ナル修理ヲ行ヒ得シメ發動機ハ點檢、調整、故障ノ探査ニ重キヲ置キ輕易ナル修治ヲ行ヒ得シム</p>
<p>計 測 器 取 扱</p>	<p>飛行實施ニ必要ナル計測器ノ取扱點檢並ニ機能ノ判定要領ヲ會得セシム</p>
<p>氣 象</p>	<p>天氣圖ノ讀解及天氣判斷ノ要領ヲ會得セシム</p>
<p>飛 行 機 整 備</p>	<p>飛行準備ニ必要ナル飛行機ノ整備ハ自ラ行ヒ得シム</p>
<p>標 縱 術</p>	<p>概ネ第二學年初頭ヨリ開始シ單機飛行ニ畧完全ニ三機編隊(重機ヲ除ク)及計器飛行ハ其要領ヲ、夜間飛行ハ其概要ヲ會得セシム</p>
<p>空 中 航 法</p>	<p>推測航法ノ要領ヲ會得セシメ片航約三百料、野外航法ヲ實施セシム、又空中航法ニ必要ナル地圖ノ讀解ヲ深刻ニ修得セシム</p>
<p>航 空 用 具 取 扱</p>	<p>著下傘、酸素吸入器、電熱被服、救命具等ノ取扱、使用法ヲ會得セシム</p>
<p>學 科</p>	<p>併科ニ連繫シ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナル科目ニツキ行フモノトス</p>
<p>備 考</p>	<p>其他航空法規、航空衛生ニツキ教育スルモノトス</p>



包裝シ各戸ニ一箇宛交付スルノ準備ヲ爲ス

下志津陸軍飛行學校下士官候補者教育綱領

- 一、下士官候補者教育ノ目的ハ幹部タルヘキ性格徳操ヲ益シ、向上シ偵察隊ノ操縦或ハ各種飛行隊ノ無線又ハ偵察隊、爆撃隊ノ戦技ニ任スル下士官タルニ必要ナル學識技能ヲ具備セシメ且將來ノ發達ニ資スヘキ素地ヲ與フルニ在リ
- 抑、空中勤務者ハ飛行機活動ノ本源ヲ成シ又無線下士官ハ飛行隊活動ノ脈絡タル通信機關ノ重要素ヲ成形スルモノニシテ是等教育ノ成果ハ飛行隊ノ能力發揮ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ教育ニ任スル者ハ常ニ周到ナル準備ヲ爲シ懇切熱誠率先垂範以テ教育訓化ニ當リ空中又ハ地上勤務者必須ノ性能ノ涵養ニ努ムルヲ要ス
- 二、下士官候補者隊ニ於ケル訓育ハ勅諭勅語ヲ奉體シ軍人精







シ得ルノ技能ヲ附與ス

本教育ノ實施ニ伴ヒ特ニ空中勤務者又ハ地上勤務者トシテノ精神教育ニ意ヲ用フルヲ要ス

教育課程ハ別表第一乃至第三ニ據ルヘシ

四、本教育ノ實施ニ方リテハ本校教育ノ前後ニ於ケル學校及軍隊ト密ニ連繫シ是等ノ教育ト相俟ケテ其完璧ヲ期スルヲ要ス



別表第一

操縦下士官候補者教育部學術科教育課程表

<p>操縦 指揮連絡</p>	<p>主トシテ操縦者トシテ必要ナル晝間ニ於ケル視察、寫眞撮影、空地連絡ノ要領及其應用ノ概要ヲ會得セシム</p>
<p>砲兵任務</p>	<p>主トシテ操縦者トシテ必要ナル射彈觀測ノ概要ヲ會得セシム</p>
<p>空中戦闘</p>	<p>偵察機、軍機ヲ以テスル空中戦闘特ニ基本ノ固定銃戰鬥及旋回銃戰鬥ヲ會得セシム</p>
<p>空中射撃</p>	<p>固定銃ヲ以テスル空中射撃ノ要領及旋回銃射撃ノ概要ヲ會得セシム</p>
<p>爆撃</p>	<p>操縦者トシテ爆撃ノ概要ヲ會得セシム</p>
<p>機関銃並射撃用具及爆撃器</p>	<p>航空機用固定、旋回機関銃、射撃並直寫眞機及發射聯動機ノ取扱及武裝法ニ関シ其要領ヲ會得セシム且爆撃器裝備及爆彈ノ取扱、懸吊法ヲ會得セシム</p>
<p>學科</p>	<p>術科ニ連繫シ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナル課目ニツキ行フモノトス</p>



別表第二

無線下士官候補者教育部學術科教育課程表

學科	通信班勤務	有線電話通信	無線通信班勤務		無線器材取扱
			通信法	班勤務	
學術科	其要領ヲ會得セシム	有線電話器材ノ構造機能ヲ會得セシメ點檢・調整及修理法ニ習熟シ 電話通信法ヲ會得セシメ又線路ノ構成及接收ニ関シ作業班長 以下ノ動作ニ習熟セシム	地上ニ於ケル無線通信術ニ熟達セシメ且無線電話通信法ヲ修得セシム 又各種視聽通信シテ的確ニ實施シ得シム	對空無線電信所ノ開設・接收・移動並通信所勤務ニ習熟セシム 又通信ニ関スル法規ノ一般ヲ理解セシム	無線器材ノ構造・機能ヲ理解シ其點檢・調整・修理及飛行機ハ ノ装着ニ習熟セシム
モノトス	術科ニ連繫シ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナル課目ニ就キ行フ				



別表第三

戦技下士官候補者教育部學術科教育課程表

<p>捜索</p>	<p>簡單ナル目標ニ對スル晝間ノ視察ニ熟練セシメ且夜間ニ於ケル視察ノ概要ヲ會得セシム</p>
<p>空中航法</p>	<p>空中航法ノ要領ヲ會得セシム 但位置決定ハ推測法ニ止ム</p>
<p>通信連絡</p>	<p>一、無線電器材ノ構造ヲ理解シ取扱法ヲ會得シ地上相互通信法ニ習熟セシム 二、座地連絡ノ要領ヲ會得セシム</p>
<p>寫眞</p>	<p>寫眞器材ノ構造ヲ理解シ其取扱法並機上單一寫眞ノ撮影法ヲ會得セシム</p>
<p>射撃</p>	<p>一、地上豫習射撃及射撃隊弁渡習ヲ會得ス 二、航空機用旋回機関銃ノ構造ヲ理解シ且武裝法ヲ會得セシム</p>
<p>航空用具ノ取扱</p>	<p>落下傘、酸素吸入器、膚熱被服救命具等ノ取扱ヲ會得セシム</p>
<p>學科</p>	<p>術科ニ連繫シ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナル課目ニシキ行フモノトス</p>
<p>備考</p>	<p>其他航空法規、航空衛生ニシキ教育スルモノトス</p>



明野陸軍飛行學校下士官候補者教育綱領

- 一、 下士官候補者教育ノ目的ハ幹部タルヘキ性格徳操ヲ益ニ向上シ戦闘隊ノ操縦ニ任スル下士官タルニ必要ナル學識技能ヲ具備セシメ且將來ノ發達ニ資スヘキ素地ヲ與フルニ在リ抑々操縦者ハ飛行機活動ノ本源ニシテ之カ教育ノ成果ハ戦闘隊ノ能力發揮ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ教育ニ任スル者ハ常ニ周到ナル準備ヲ爲シ懇切熱誠率先垂範以テ教育訓化ニ當リ空中勤務者必須<sup>性能</sup>ノ涵養ニ努ムルヲ要ス
  - 二、 下士官候補者隊ニ於ケル訓育ハ勅諭勅語ヲ奉體シ軍人精神ヲ鍛練シ品性ノ陶冶、人格ノ向上ニ努メ下士官タルニ必要ナル一般軍事學識技能並内務及諸勤務ヲ教育ス
- 教育課程ハ第二年度下士官候補者教育ニ準シ熊谷陸軍飛行學



校ノ教育ニ連繫シ之ヲ向上スルモノトス

三、教育部ニ於ケル教育ハ戦闘隊操縦者タルノ技能ヲ附與スル  
モノトス

本教育ノ實施ニ伴ヒ(特ニ)空中勤務者トシテノ精神教育ニ意ヲ用フ  
ルヲ要ス

教育課程ハ別表ニ據ルヘシ

四、本教育ノ實施ニ方リテハ熊谷陸軍飛行學校ニ密ニ連繫シ兩  
教育相俟テ完整ヲ期スルヲ要ス



別表

教育部學術科教育課程表

學 科	射擊用具 ノ取扱	機関銃及 射擊	空中戰闘	
術科ノ教育ニ必要ナル課目ニツキ之ヲ行フモノトス	又標的其射擊用具ノ取扱ヲ會得セシム	航空機用固定機関銃ノ射擊鑑査寫真機及發射聯動機取扱並ニ武裝法ニ関シ其要領ヲ會得セシム	單機教練ハ略々完全ニ、中隊教練ハ編隊行動ノ要領ヲ會得セシム	空中射擊ノ要領ヲ會得セシム



別表

教育部學術科教育課程表

學科	射擊用具 ノ取扱	機関銃及 射擊	空中戰鬥	
術科ノ教育ニ必要ナル課目ニツキ之ヲ行フモノトス	航空機用固定機関銃、射擊鑑査寫真機及發射聯動機取扱並武裝法ニ関シ其要領ヲ會得セシム 又標的其射擊用具ノ取扱ヲ會得セシム	空中射擊ノ要領ヲ會得セシム	單機教練ハ略々完全ニ、中隊教練ハ編隊行動ノ要領ヲ會得セシム	



教育課程ハ概シ第二年度下士官候補者教育ニ準シ本校派遣前  
飛行隊ニ於ケル程度ヲ向上スルモノトス但操縦下士官候補者  
ノ教育課程ハ熊谷陸軍飛行學校ノ教育ニ、戰技下士官候補者  
ハ下志津陸軍飛行學校ノ教育ニ連繫スルヲ要ス

三 教育部ニ於ケル教育ハ左ノ趣旨ニ基キ實施スヘシ

(1) 操縦

爆撃隊操縦者タルノ技能ヲ附與シ爆撃ノ概要ヲ會得セシム

(2) 戰技

所屬分科ニ應ズル爆撃者及機上射手タルノ技能ヲ附與シ且  
下志津陸軍飛行學校教育ノ程度ヲ向上ス

本教育ノ實施ニ伴ヒ特ニ、空中勤務者トシテノ精神教育ニ意  
ヲ用フルヲ要ス



教育課程ハ別表第一、第二ニ據ルハシ

四、本教育ノ實施ニ方リテハ熊谷又ハ下志津陸軍飛行學校ト密  
ニ連繫シ之等教育ト相俟ナテ其完~~成~~壁ヲ期スルモノトス



別表第一

操縦下士官候補者教育部學術科教育課程表

爆 擊	爆撃操縦ヲ習得セシメ爆撃術ノ概要ヲ會得セシム
空中戦闘	單機及編隊戦闘ノ概要ヲ會得セシム
空中射撃	輕爆隊ノモンニ在リテハ固定銃射撃ヲ習得セシメ夜間銃射撃ノ概要ヲ會得セシム 重爆隊ノモンニ在リテハ旋回銃射撃ノ概要ヲ會得セシム
爆撃及射撃器材ノ取扱	爆撃器材ノ構造機能ヲ理解シ其點檢、調整法ノ概要ヲ會得スルト 共ニ爆撃裝備及爆彈ノ取扱並ニ懸吊法ヲ會得セシム又射撃器材ノ構造機能點檢調整法ノ概要並ニ武装法ニ関シ其要領ヲ會得セシム
學 科	術科教育ニ必要ナル課目ニツキ之ヲ行フモノトス



遺族特別  
 拜數參拜

附表第二

戰技下士官候補上教育司學科教育課程表

搜 索	空中航法	射擊及空 中戰闘	爆 擊	射擊及爆擊 器材ノ取扱	學 科
下志津陸軍飛行學校ノ程度ヲ向上ス		旋回銃射擊ヲ習得セシメ軍機及編隊戰闘ノ要領ヲ會得セシム	編隊僚機ノ爆擊者トシテ必要ナル爆擊術ニ習熟セシム	射擊及爆擊器材ノ取扱ニ習熟セシムト共ニ武裝法ニ習熟セシム	術科ニ連繫シ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナル項目ニツキ教育ノ之ヲ行フモノトス



陸軍航空技術學校技術生徒及丙種學生教育綱領

第一 技術生徒教育

一 技術生徒教育ノ目的ハ幹部タルヘキ性格徳性ヲ涵養シ航空器材ノ整備ニ任スル下士官タルニ必要ナル學識技能ヲ具備セシメ且將來ノ發達ニ資スヘキ素地ヲ與フルニ在リ抑々器材ノ整備ハ飛行隊活動ノ基礎ヲ成スモノニシテ之ニ任スル者ノ教育ノ成果ハ飛行隊ノ能力ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ教育ニ任スル者ハ常ニ周到ナル準備ヲ爲シ懇切熱誠率先垂範以テ教育訓化ニ當リ地上勤務者必須ノ徳性  
能ノ涵養ニ努ムルヲ要ス

二 生徒隊ニ於ケル訓育ハ勅諭勅語ヲ奉體シ軍人精神ヲ鍛練シ品性ノ陶冶人格ノ向上ニ努メ下士官タルニ必要ナル一



般軍事學識技能並內務及諸勤務ヲ教育ス

教育課程ハ別表第一ニ據ルヘシ

三、教育部ニ於ケル教育ハ生徒ヲ機關、電機、金屬ノ三工科

ニ分チ各々専門ノ技術ニ習熟セシメ自ラ作業手タルノ實  
カヲ有セシムルト共ニ下士官トシテ作業ノ指揮能力ヲ附

與ス

本教育ノ實施ニ伴ヒ特ニ地上勤務者トシテノ精神教育ニ

意ヲ用フルヲ要ス

教育課程ハ別表第二ニ據ルモノトス

四、本教育ノ實施ハ概テ軍隊ニ準シテ行フヘシト雖生徒心身

發達ノ狀態ニ適應セシムルノ著意ヲ要ス

生徒隊及教育部ハ互ニ連繫ヲ密ニシ協力一致シテ之カ教



育ノ完壁ヲ期スヘシ

又軍隊教育トノ連繫ニ著意スルヲ要ス

第二 丙種學生教育

五、丙種學生ノ教育ノ目的ハ學生ヲシテ將校タルノ徳性ヲ涵養セシムルト共ニ主トシテ器材ノ整備ニ任スル初級士官タルニ必要ナル學術科ヲ教育スルニ在リ

六、本教育ハ學生ノ素質ト修業期間ノ短少ナルトニ鑑ミ能ク輕重ヲ考慮シ直接必要ナル事項ヲ選ヒテ教育スヘシ  
本教育ノ成果ハ飛行隊ノ士風ニ影響スルコト甚ラサルヲ以テ常ニ將校タルノ精神教育ト指導トニ留意シ航空兵科將校タルノ學術科ヲ修得セシムルヲ要ス  
教育課程ハ別表第三ニ據ルヘシ



別表第一

生徒隊訓育課程表

<p>教育スヘキ課目及程度ハ概テ軍隊教育令ニ示ス第一二年度下士官候補者教育ニ準スヘシト雖特ニ指示スヘキ事項左ノ如シ</p>	<p>訓 話 勅諭勅語ニ基キ軍人精神ヲ注入啓發シ我國體ノ精華建軍ノ本義ヲ理解セシム</p>	<p>徒歩教練 初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム</p>	<p>陣中勤務 主トシテ歩哨傳令行軍宿營ニ関シ教育ス但初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム</p>	<p>内務及諸勤務 初級下士官トシテノ動作ハ其要領ヲ會得セシム</p>	<p>兵器業務 軍隊兵器業務中下士官トシテ必要ナル事項ヲ會得セシム</p>	<p>普通學 數學地理歴史國語作文英語ノ教育ヲ行フ</p>
---	---	---------------------------------------	--	---	---	-----------------------------------



別表第二

技術生徒教育部學術科教育課程表

一、機關工科生徒ニハ飛行機ノ整備並修理作業ニ關シ優秀ナル伎倆ヲ得シム

二、金屬工科生徒ニハ金屬諸作業ニ關シ優秀ナル伎倆ヲ得シム且自動車工術及木工術塗粧工術ヲ會得セシム

三、電機工科生徒ニハ電機器材及計測器ノ整備及之カ修理作業ニ關シ優秀ナル伎倆ヲ得シム

課目	區分	機 關 工 科	金 屬 工 科	電 機 工 科
機 關 工 術	機	一、發動機ノ構造機能 二、發動機各部ノ分解手入點檢 組立調整及試運轉 三、發動機ノ部品交換ニヨル修理 四、機体ノ構造機能 五、機体ノ分解手入點檢組立調整 六、機体ノ部品交換ニヨル修理作業 七、諸裝備品(落下傘酸素吸入器等ヲ含ム)ノ裝著及點檢 八、發動機ノ取付及取卸 九、飛行前後ノ點檢手入及試運轉 十、故障ノ探究修治		
	術		修理ニ必要ナル飛行機ノ構造機能ノ概要ヲ會得シム 及修理ニ習熟セシム	電機工術教育ニ必要ナル飛行機ノ構造機能ノ概要ヲ會得セシム

機關工術ノ修得ニ必要ナル仕上  
 火造仕上機械板金塗粧ノ  
 諸作業ニ習熟セシム木工等  
 仕上、解付、弄ノ既得ヲ會得



學科	自動車工術	計測器工術	電機工術	工作術	機關工術
術科ニ連繫シテ其理解ヲ容易ナラシムルニ必要ナルトス	修理ニ必要ナル自動車ノ構造機能ノ概要及簡單ナル部品製作及修理作業ヲ會得セシム	修理ニ必要ナル計測器ノ構造機能ノ概要及簡單ナル部品製作及修理作業ヲ會得セシム	部品製作ニ必要ナル電機器材ノ概要ヲ會得セシム	火造仕上、機械、板金、塗粧ノ諸作業ニ習熟セシメ木工、鑄工、銑削作業ハ其要領ヲ會得セシム	四、機体ノ構造機能 五、機体ノ分解手入點檢組立調整 六、機体ノ部品交換ニヨル修理作業 七、諸裝備品(落下傘、酸素吸入器等ヲ含ム)ノ裝著及點檢 八、發動機ノ取付及取卸 九、飛行前後ノ點檢手入及試運転 十、故障ノ探究修治 及修理ニ習熟セシム
課目ニ就キ行フモノ	一、各種計測器ノ構造機能、取扱、點檢、調整 二、故障ノ探究修治 三、檢定及修理作業	一、地上照明器材ノ構造機能及取扱 二、機上電機器具及電熱裝置ノ構造機能取扱及修理 三、充電機、蓄電池ノ構造機能及取扱 四、各種發電機及電動機ノ構造機能取扱及修理 五、機上爆擊諸裝備ノ構造機能及取扱 六、故障探究修治	電機工術ノ修得ニ必要ナル仕上、銅付等ノ概要ヲ會得セシム		



屋組合、杉橋鑿如屋組合、松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ亙リ午後六時半ヨ  
 別表第三

丙種學生學術科教育課程表

別表第三

軍		育		訓	
空	航	體	劍	精神訓話	修身
應用力學	飛行機學	體操	劍術	軍隊教育	修身教育ト連繫シ志操ヲ堅確ニシ品性ヲ高尚ナラシメ以テ益々將校タルノ徳性ヲ發達セシム
工藝學	發動機學	服務提要	飛行機學	將校服務ノ要素並初級士官トシテ日常軍隊業務ヲ執ルニ必要ナル事項ヲ會得セシム	道德ノ要素ヲ授ケ勸諭勸語ニ基キ國民道德ノ特質ヲ明カニシ我國體ノ尊嚴ニ就テ確乎タル信念ヲ附與シ且軍人道德ヲ了得セシメ以テ健全ナル思想及情操ヲ養成セシム
計測器學	熱力學	飛行機用計測器	熱力學	飛行機用計測器ノ構造ニツキ其取扱保存ヲ理解セシムルニ必要ナル事項ヲ會得セシム	主トシテ軍隊教育令綱領及總則ノ趣旨ヲ徹底セシメ軍隊教育及計畫並一般教育學ノ大要ヲ會得セシム
飛行機用金屬材料	油	燃料	飛行機用金屬材料	油	體力ヲ増進スルト共ニ教官タルノ能力ヲ養成セシム
材料強弱及構造力學	燃料	燃料	材料強弱及構造力學ノ概要ヲ會得セシム	燃料	軍刀術及教育法ノ概要ヲ會得セシム

飛行機用金屬材料、油、燃料ニツキ其使用及取扱ニ必要ナル事項ノ大要ヲ會得セシム



言語

術

體力ヲ増進スルト共ニ忍耐力タルノ精神ヲ養フ

劍術

軍刀術及教育法ノ概要ヲ會得セシム

飛行機學

空氣力學ノ大要並飛行機及「プロペラ」ノ構造ニ就キ其ノ取扱保存ヲ理解セシムルニ必要ナル事項ヲ會得セシム

發動機學

熱力學、航空發動機理論ノ大要並發動機ノ構造ニツキソノ取扱保存ヲ理解セシムルニ必要ナル事項ヲ會得セシム

計測器學

飛行機用計測器ノ構造ニツキ其取扱保存ヲ理解セシムルニ必要ナル事項ヲ會得セシム

工藝學

飛行機用金属材料及油脂等ニツキ其使用及取扱ニ必要ナル事項ノ大要ヲ會得セシム

應用力學

材料強弱及構造力學ノ概要ヲ會得セシム

機械學

機械構造ノ基礎的知識ヲ會得セシム

兵器業務

軍隊ニ於ケル兵器委員トシテ必要ナル事項ヲ知得セシム

工場法規

概要ヲ摘議シ工場管理ノ要旨ヲ會得セシム

戰術學

一般戰術ノ初歩航空部隊ノ運用法諸勤務及軍制ノ概要ニツキ會得セシム

兵器學

兵器ノ構造機能ノ概要及保存法ノ大要ヲ會得セシム

射擊學

射法及射擊效力ノ一般ヲ會得セシム

測圖學

測圖一般ノ概念ヲ與フルト共ニ地形鑑識ノ能力ヲ養成セシム

築城學

築城ニ關スル諸原則及作業實施ノ要領ヲ會得セシム

交通學

軍事上關係ヲ有スル交通施設ノ概要ヲ會得セシム

衛生學

軍隊衛生ノ概要ヲ會得セシム

數學

生徒教育ニ連繫シ其程度ヲ概ホ中學卒業程度ニ向上セシム

物理學

生徒教育ニ連繫シ其程度ヲ概ホ中學卒業程度ニ向上セシム

化學

生徒教育ニ連繫シ其程度ヲ概ホ中學卒業程度ニ向上セシム

英語

生徒教育ニ連繫シ其程度ヲ概ホ中學卒業程度ニ向上セシム

機關工術

主トシテ現用機ニ就キ將校タルニ必要ナル作業ノ計畫指導並實施ノ要領ヲ會得セシム

武裝法

主トシテ現用機ニ就キ將校タルニ必要ナル作業ノ計畫指導並實施ノ要領ヲ會得セシム

飛行場勤務

主トシテ現用機ニ就キ將校タルニ必要ナル作業ノ計畫指導並實施ノ要領ヲ會得セシム

部隊ノ指揮官タリ教官タルノ能力ヲ養成セシム



廿六日Eリ正民一日二至八六日間並送一英上外六七實遊ナリ

六落 六

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

決行指定

九三

成規類ノ記載

政務次官回付 決裁前後連帶軍事士記官

永命 高方

決行(決裁)後  
回覽課名

徵募課

件番受  
名 號 領  
青年學校教練科等查閱心得ノ件

大臣 委  
局長 主務  
次官  
政務 次官  
局長 主務  
高級 副官  
主務 課長  
主務 課員  
官房御用掛  
審案 筆記者

房官臣大 課局務主  
了結 領受 出提 領受 號番  
昭和 昭和 昭和 昭和  
年 年 十年 年  
九月五日 八月七日  
八月七日  
連帶 局長  
決行(決裁)後 回覽 局長  
長課 長課

軍徴第一〇三號

起元應(課)名

參與官

書記官

審案 筆記者

左 軍



訓令案

陸訓第 號

訓令案別紙ノ通

陸訓第一六

昭和十年九月二日

(右決行後)

陸軍次官ヨリ海軍文部外務拓務各次官  
並付滿事務局次長宛通牒案

陸普

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通陸軍一般ノ訓  
令セラレタルニ付為參考送付ス

陸普第四九〇五號

昭和十年九月三日

ル者亦多數ニ上リタリ

七花

火

廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間近歩一堤上花火ヲ實施セリ

(ニ打上)



陸訓第 號

青年學校教練科等查閱心得左ノ通又定ム

昭和十年八月 日

陸軍大臣

青年學校教練科等查閱心得

第一 師團長又ハ軍司令官（朝鮮軍司令官ヲ除ク以下同ジ）ハ管下ニ於ケル青年學校（其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ヲ含ム以下同ジ）ノ教練科（其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ニ在リテハ青年學校教練科相當科目以下同ジ）ニ關スル查閱ヲ適正ナラシメ且其ノ進步發達ニ付適宜青年教練查閱官ヲ指導スルヲ要ス

昭和十〇、八、一六  
陸軍一般



第二 師團長又ハ軍司令官青年教練査閱官ヲ命ゼントスルトキハ青年學校教練科等査閱規程第三條ノ規定ニ基キ步兵佐官中努メテ適任ナル者ヲ選定スルヲ要ス但シ已ムヲ得ザルトキハ各兵科佐官大尉中ヨリ之ヲ選ブコトヲ得

第三 聯隊區司令官ハ教練科ニ關スル査閱ニ付希望スベキ事項アルトキハ豫メ師團長ニ上申スルコトヲ得

第四 聯隊區司令官、第十九、第二十師團長又ハ軍司令官教練科査閱ノ場所及査閱日割ヲ定ムルニハ教練科ヲ修ムル者ノ數及其ノ<sup>生</sup>業ノ實情<sup>及</sup>各査閱場間ノ距離及集合解散ニ費スベキ時間數等ヲ慮慮スルヲ要ス

一 青年學校ノ教練科ニ關スル査閱ハ成ルベク半日以内ニ結了スル



如クスルヲ要ス

第五 聯隊區司令官、第十九、第二十師團長又ハ軍司令官ハ青年學校所在地方ノ情況、教練科ヲ修ムル者ノ數、既注ニ於ケル教練科ノ實施ノ成績其他教練科查閱場ノ景況、既注ニ於ケル教練科ノ實施ノ成績其他教練科查閱ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ豫メ青年教練查閱官ニ通報スベシ

第六 青年教練查閱官ハ本心得ノ趣旨並<sup>及</sup>師團長又ハ軍司令官ノ指示ニ基キ地方ノ情況、教練科教材、既往ニ於ケル教練科實施ノ成績並<sup>及</sup>聯隊區司令官ノ通報等ニ鑑ミ查閱ノ方法ヲ決定スルモノトス  
第十九、第二十師團長又ハ軍司令官

第七 青年學校（本科二年乃至三年ノ學校ヲ除ク）本科最終年末迄ニ修得セシムベキ教練科ノ程度ハ概ネ附表ノ如シ青年教練查閱官



該  
ハ本表ト教練科教授日時數並<sup>及</sup>教材選擇ノ趣旨ニ鑑ミ教練科ノ成  
績特ニ教練科ヲ修ムル者ノ心身ノ鍛鍊上ニ及ボシタル影響ヲ考察  
スベシ而シテ此ノ際特ニ留意スベキハ青年學校ノ教練科本然ノ目  
的精神ヲ審ニシ教練科ノ資材及設備、教授力、教練科ヲ修ムル者  
ノ年齡及職業其ノ他ノ關係ヲ深ク考量シ專門的軍事上ノ見地ヨリ  
ノミノ要求ヲ爲シ又ハ徒ニ外形ノ劃一ヲ求ムルガ如キコトナキコ  
ト是ナリ

第八 査閱ノ結果ニ基キ開示スル所見ノ適否ハ教練科ノ進歩發達ニ  
至大ノ影響ヲ及ボスベキヲ以テ青年教練査閱官ハ教練科ヲ修ムル  
者ノ心理、青年學校諸般ノ情況ニ對スル考察ヲ遂グ慎重深慮之ガ  
正鵠ヲ期セザルベカラズ之ガ爲豫メ各種ノ手段ヲ盡シ査閱ヲ爲ス



ベキ青年學校並<sup>及</sup>當該青年學校所在地方ノ實情ヲ知得スルコトヲ  
努ムルコト肝要ナリ



附表

教練科程度表		教	材	程	度
陣中勤務	部隊教練	各個教練		<p>一 各個教練ハ略々完全ニ修得セシム</p> <p>二 射撃ノ姿勢ハ徒手又ハ執銃ニ於ケル各種ノ姿勢ヲ略々完全ニ、据銃、照準擊發ハ其ノ概要ヲ修得セシム</p> <p>三 部隊教練ハ密集及疎開ノ動作ニ付分隊教練ハ略々確實ニ、小隊教練ハ其ノ概要ヲ會得セシム</p> <p>四 陣中勤務ハ搜索及警戒ニ關シ斥候及複哨動作ヲ、距離測量ニ關シ步測及目測ニ付略々正確ニ測量シ得シメ救急法ニ關シ應急ノ處置ニ付其</p>	

得  
之  
十



考 備	武 道	體 操	練 軍 事 講 話
<p>教材ハ青年學校教練科教材配當及進度參考表ニ依リテ  <del>其ノ他ノ單ニ其ノ概要ヲ會得セシム</del></p>	<p>地ノ情況ニ依リ之ヲ課セサルコトヲ得        八其他ノ單ニ其ノ概要ヲ會得セシム</p>	<p>六 體操ハ基本體操ニ付略々完全ニ其ノ他ハ概要        ヲ會得セシム</p>	<p>ノ概要ヲ、其ノ他ハ各個ノ動作ヲ會得セシム        五 軍事講話ハ平時團隊ノ配置、各兵科ノ性能武        官ノ階級、軍隊生活、服役ノ大意、典令範中必        要ノ事項等ニ付其ノ概要ヲ會得セシム</p>
	<p>七 武道ハ基本動作又ハ試合等適宜實施スルモ土</p>		

兵 隊 時 令 施







大臣 <sup>水野</sup> 龍三ヨリ文部大臣 <sup>水野</sup> 龍三、参謀總長 <sup>水野</sup> 龍三、教育總監 <sup>水野</sup> 龍三  
照會案

陸普 <sup>號</sup>

陸軍現役將校學校配屬令中別紙ノ通改  
正致度照會ス

陸普第二九〇六號

昭和十年五月廿二日

右異存ナキ回答アリタル後

閣議請議案

陸普 <sup>號</sup>

陸軍現役將校學校配屬令中別紙勅令案



三 請  
二 大 陸 對

十四

四



ノ通改正致度理由書相添へ閣議ヲ請フ

陸軍大臣  
文部大臣

内閣總理大臣宛

陸普第三四一八號 昭和十年六月十七日

勅令案  
(別紙ノ通)



勅令案

朕陸軍現役將校學校配屬令中改正ノ件ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年八月九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

文部大臣



勅令第百四十八號

陸軍現役將校學校配屬令中左ノ通改正ス

第一條第一項及第五條第二項中「實業補習學校  
教員養成所」ヲ「青年學校教員養成所」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス







陸軍現役將校學校配屬令新舊對照

第一條

官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、  
高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨  
時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學  
校教員養成所青年學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ  
教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬  
ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得ハル場合ニ於テ  
ハ此ノ限ニ在ラズ

第二、第三項（省略ス）

第五條 第一項（省略ス）

尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限  
五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ  
實業學校、修業年限ニ年未滿ノ實業補習學校教員養  
成所青年學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル  
學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セズ



開  
徵募  
体

文 部 省

式第1035號其三  
官普一五號

昭和十年六月五日



文部大臣 松田源治

陸軍大臣 林銑六郎殿



陸軍現役將校學校配屬令中改正ノ件

五月二十二日陸普第二九〇六號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處右ハ異存無  
之ニ付御了承相成度

